

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

巻頭特集

小学生で2度の小児がん

闘病と鍵盤とー高2 鈴木慶さん(2～5面)

- 福祉の拠点訪ねてー依存症の回復を支援
- 身寄りなし問題訴え列島縦断、新潟通過
- 令和4年度の県社協実施事業報告概要版

7月号
2023
第851号



絵 「白馬山麓」
作・永越環（上越市）



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<https://www.fukushiniigata.or.jp/>

バックナンバー
こちらから

小学生で2度発症 治療に耐え

新潟市の高2 鈴木慶さん

小4で悪性脳腫瘍 2年後に尾骨転移

入院期間
計1年余

今や身近な病気の「がん」。しかし、治療に伴う精神的、肉体的な負担は並大抵でない。その大病に、新潟市江南区の高校2年生、鈴木慶さんは小学時代に2度、襲われた。4年生で悪性の脳腫瘍、6年生では転移が見つかった。つらい闘病の支えになったのが幼少から弾く電子オルガンだ。2年前からチャリティーコンサートに出演、集まった浄財は「病気の子どもたちのために」と寄付される。今年のコンサートは今月16日。闘病の子らへの祈りも込めて鍵盤に向かう。



患者や体験者らの「がんカフェ」で演奏する鈴木慶さん。電子オルガンは父の運転する車で運び込んだ＝5月27日、新潟市西区

小児がん 闘病と鍵盤と



大粒の涙が、幼さの残るほおを伝わった。2019年1月、小学6年の慶さんは新潟大学医歯学総合病院の診察室で、医師から検査結果を聞かされた。2年前に悪性の脳腫瘍を治療。今回の検査で尾骨付

近への再発がみつかった。前回よりも強力で長期の治療が必要だと医師に告げられた。入院した病室でふさぎ込んだ。「あの治療がまた始まる。もっと苦しくて長くなるのか」。2年前の病床の日々が頭の中を駆け巡った。

2007年3月に誕生。

巻頭特集

両親と姉、同居の祖父にかわいがられ、素直で優しい、母思いの子どもに育った。

最初の異変は17年、4年生の夏の終わりだった。「あれ、ご飯、もういいの?」。母が声を掛けた。食事を残す日が増えた。疲れやすく、食欲にむらがあった。地元の医者に診てもらい、様子見しても体調は戻らなかつた。紹介状を手に入れた大病院へ。年が明けた18年1月、MRI(磁気共鳴画像法)検査で、脳に直径約4mmの腫瘍がみつかった。後に悪性Ⅱがんだと聞いた。入院して放射線照射と抗がん剤投与を続け、腫瘍を叩いた。「吐き気や発熱、全身の不快感でつらかった」4カ月半後に退院、5年生として学校に戻った。

最終学年の秋。「ももの付け根の辺りが痛い」と訴えるようになった。痛む部位は「おしりの近く」と変化した。

地元の医師が新大病院に連絡を入れると「すぐ来てください」。

卒業式の準備も始まった年明けの1月。MRI検査で尾骨付近に直径約5センチの腫瘍が見つかった。先述の通り、医師の告知に涙が止まらなかった。2年前の悪性腫瘍の細胞の生き残りが尾骨へ遠隔転移したとみられた。がん細胞を完璧に叩くための抗がん剤と放射線照射治療は約8カ月間が見込まれた。

抗がん剤副作用に苦しむ

「逃げたいけど家族心配する」

苦しい治療を想像して気持ちが悪くただでなかつた。悔しかった。というのも、再入院した直後には、楽しみにしていた電子オルガン発表会が予定されていたから。落ち込んでいられなかった。気を振り絞った。主治医に頼み込んだ。一時退院の許しを得て、発表会では全力で演奏した。

もう一つ、3月の卒業式では卒業生合唱の指揮を執る予定だった。こちらも許可を得て、治療の合間を縫うように病院から学校へ。練習にも出向き、当日は指揮の大役を果たした。同級生たちが中学校へ入学する4月。主治医が母にアドバイスした。それを受け、母は入学する中学校へ電話。すると、入学式の翌

横たわるか、うずくまるかして過ごした。自らの宿命や人生に絶望しなかったのか。「絶望はしなかった。死にたいとも思わなかった。ただ、病院から逃げ出すことができれば家族が心配する。母を悲しませたくない。自分以上の家族を、そして母を思った。」

入院生活の励みになったのが、院内で見つけた電子オルガンだった。病院には長期入院する子どもたちの学習を支援する院内学級があり、中学生用の部屋の片隅に電子オル

【脳腫瘍】頭蓋骨内に発生した腫瘍の総称。150種類以上に分類され、原発性の脳腫瘍は良性と悪性に大別される。【良性と悪性】良性は増殖速度が遅く、正常組織との境界が比較的はっきりしている。脳以外の組織に発生する。反対に、悪性は増殖速度が速く、周辺に浸潤するため正常組織との境界が見分けにくい。脳そのものの組織に発生する。脳腫瘍すべてが「がん」ではないが、悪性の脳腫瘍は「がん」となる。【ステージとグレード】脳の腫瘍には「リンパ節が存在しない」などの理由から、他のがんのように、病期や進行度の「ステージ」ではなく、悪性を1〜4の「グレード」で表す。

ガンがあった。長く使っていないようだったが、通電すると音が出た。

「電子オルガンを先に習っていた姉の影響で、僕も3歳から習った。この楽器は1台でいろんな音色を奏でられるから好き」

小学校卒業式で合唱指揮 中学校長ら訪れ入学式

治療の合間

隅に電子オル

日、学校長と担任が病院を訪れてくれた。院内で1人だけの入学式が行われた。真新しい学生帽と学生服、胸に花を付けた記念写真の顔は輝いていた。

2度の入院生活は合わせて1年余りに及んだ。大人でもつらいという抗がん剤治療にどう耐えたのか。

「特に2回目はつらくて、



中学校の校長と担任が病院を訪れて実現した院内入学式。左は母、絵里子さん。2019年4月



ベッドに横たわり、抗がん剤副作用に耐える、小学6年の鈴木慶さん。2019年

小児がん 闘病と鍵盤と

(3ページから続く)

許可を受け、入院中も練習で弾いた。大好きな楽器に触れ、気持ち落ち着いた。闘病仲間が退院する際には、演奏をプレゼントした。看護師や医師にも曲を披露した。

2度目の入院の際、現在のチャリティーコンサート活動へのきっかけがあった。母が習うオカリナ教室の先生が闘病の励みになれど「退院したらコンサートを一緒にやろう」と誘ってくれた。退院後の19年秋、オカリナの先生や母、音楽仲間など20人近くで結成した音楽グループ「はじめのいっば」に参加した。

× × ×

生きる

グループは、感染禍での自粛を経た後、21年5月と翌22年7月、新潟市民芸術文化会館(りゅーとびあ)スタジオAでチャリティーコンサートを開催。電子オルガンの慶さんも軽快な演奏で客席を魅了した。

スタジオAでのチャリティーコンサートは今年も

7月16日正午と午後3時の2回、開かれる。

集まった善意はグループとして、新大病院の隣に昨秋、オープンした「ドナルド・マクドナルド・ハウス」にいがたへ寄付している。この施設には長期で入院治療する子どもたちや家族が滞在する。「僕と同じよ

習うから少
電子オルガン

院内に「1台あった!」

許可得て練習 仲間の退院祝い演奏



「はじめのいっば」チャリティーコンサートでステージ衣装をまとい電子オルガンを奏でる鈴木慶さん 2022年7月、りゅーとびあ



「はじめのいっば」クリスマスコンサートの記念撮影= 2022年12月、新潟市江南区

◆「はじめのいっば」チャリティーコンサート◆

7月16日正午と午後3時の2回(1回1時間)、新潟市民芸術文化会館(りゅーとびあ)スタジオA。音楽グループ「はじめのいっば」メンバーが合奏や歌などを披露、鈴木慶さんも出演する。入場は無料だが、募金箱が設けられる。公演1回に定員100人。予約が必要。申し込みは090(7735)9937、事務局のかごしまさん。

うな子たちの役に立てたら」と慶さん。

× × ×

これまでの治療は命を守ることを最優先にして悪性腫瘍を叩いた。脳腫瘍の発症自体が成長ホルモンなど

の分泌低下を招いたが、こうした後遺症に放射線照射も拍車を掛けた。

放射線照射はホルモン分泌だけでなく、記憶力や集中力の低下、精神不安定なども引き起こした。

ホルモン分泌などを健康な状態に近付けるため、自宅での注射や服薬が日々、欠かせない。

参加活動 音楽グループなど 慈善演奏会

身長は少しずつ、伸びてはいるが、高校2年生の春で151センチ。

同級生と頭一つ、違う。

高校のクラスには最初から病気のことを告げた。

「みんな親切だけど、僕にどう接しているのか、戸惑っているみたい。自分もみんなの輪に入りにくい。それが悩み」。お昼はほぼ1人で弁当を広げてきた。

退院後

それでも、「2年生になって仲の良い友達もでき始めた。1人2人だけ」

後遺症いつまで
将来に不安も

自己注射、服薬欠かせず



演奏前にあいさつする鈴木慶さん。市民グループ「はなのね」が主催する「がんカフェ」に母と一緒に招かれて共演するのは昨年12月に続き2度目＝5月27日、新潟市西区

家族や仲間の応援 信じて生きてゆく

自己注射はいつまで続くのか。体は成長するのか。再発はどうか。完治するのか。人生はどうなるのか。不安は尽きない。夢もある。

「僕は小さい子が大好きだから、幼稚園教諭か保育士か、まだ分からないけどそんな方向に進めたら」演奏活動はできる限り、続けたい。

「僕の演奏を聞いた人が病氣と闘う子どもたちのことに思いをはせるなど、何かを感じてもらえたらうれしい。そして、音楽そのものも楽しんでほしい」子どもから思春期、そして青春まったただ中へ。歩みは将来への止めどない不安と背中合わせでもある。自分を応援する声があるのも分かる。

その声は家族だ、闘病仲間だ、病院の先生だ、看護師さんだ、看直しみだ……。みんなの応援が、きつときつと力になる。そう信じて、前を向く。生きてゆく。

(了)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円			
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額		6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円		
		外来の手術		32,500円		
	通院保険金日額		4,000円			
賠償責任	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外 ^(*)	初日から補償		
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)			
年間保険料			350円	500円	550円	

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途退会による保険料の返金はありません。
- ◆中途でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667
受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ22-12223より抜粋して作成〉

新潟県社会福祉協議会 令和4年度事業実施報告書概要版

1 新潟県社会福祉協議会活動指針の推進

新潟県社会福祉協議会の基本理念や基本方針実現のため、令和3～5年度を計画期間とする活動指針に定める次の4事業を重点的かつ計画的に実施した。

(1) 地域共生社会実現に向けた基盤構築の推進

地域共生社会実現に向けた地域福祉活動の取り組み推進を図るため、市町村社会福祉協議会に対する個別訪問などをおして、諸課題の把握及び解決等に向けた方策の検討、その取り組みが円滑かつ効果的に推進できるよう支援を実施した。

- ① 市町村社会福祉協議会が抱える課題の抽出及び検討
 - ・11市社会福祉協議会との個別の情報共有・意見交換の実施
- ② 地域共生社会実現に向けた関係機関・団体との連携の場づくり
 - ア 地域共生社会実現に向けた取組
 - ・市町村社協情報共有オンライン会議開催
 - ・地域共生社会実現に向けた「重層的支援体制整備事業」学習会開催
 - イ プラットフォームづくりの推進
 - ・災害時福祉支援活動推進 ・新潟県福祉教育推進会議開催
 - ・ひきこもり支援をテーマにした市町村社協担当職員による緩やかなネットワーク会議開催
 - ウ 新たな社会課題の解決に向けた具体的取組
 - ・ひきこもり者への支援推進フォーラム開催 ・地域の居場所創出支援

(2) 自立生活を支えるための包括的な総合相談・生活支援体制づくりの推進

高齢・障がい・子ども・生活困窮など各専門支援機関との連携の促進や「暮らし」全般に及ぶ伴走型支援に向けた多機関協働の中核的な役割を果たす機能が必要とされている。

「暮らし」を支える幅広い知識やスキルを身につけ、各専門的な支援機関等と連携協働して、住民を支援できる能力を有する人材を育成することや各専門的な支援機関や他職種の人々が円滑に連携協働できる広域的なプラットフォームの構築を支援していくことを目的に研修会等を開催した。

- ① 生活福祉資金貸付事業担当者連絡会議(兼生活困窮者自立支援担当者研修) 1回
- ② 県・市町村社会福祉協議会と自立相談支援機関との情報交換会 1回

(3) 地域における権利擁護体制の推進

市町村社会福祉協議会の、地域における権利擁護体制の構築や権利擁護事業の実施や拡充に向けた支援を行うとともに、市町村における成年後見制度利用促進体制の整備や強化を図るための各種事業を実施した。

- ① 地域における権利擁護体制の推進検討委員会 1回
- ② 成年後見制度担当者研修会 1回
- ③ 成年後見制度訪問検討会、体制整備支援等アドバイザー派遣
対象11市町村、アドバイザー等派遣回数 延べ27回
- ④ 法人後見訪問検討会 対象3市町村 アドバイザー等派遣回数 延べ11回
- ⑤ 中核機関職員研修会 1回
- ⑥ 法人後見・権利擁護センター職員研修会 1回
- ⑦ 市町村長申立推進研修会(基礎編) 1回
- ⑧ 市町村長申立推進研修会(応用編) 1回

(4) 福祉職の魅力についての啓発の推進

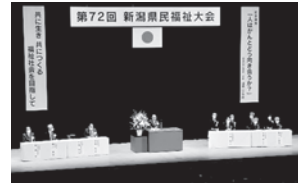
- ① 福祉現場で働く職員・事業所へのインタビュー
これまでに作成した動画の公開。また、教員や保護者向けに仕事の魅力を伝えるためのリーフレットを作成(9,000部作成、県内大学・短大・専門学校・高等学校に配布)
- ② 福祉施設の職場体験事業
新型コロナウイルス感染症拡大により10月から事業開始(体験者14名、延べ24日間体験)
- ③ 福祉人材センター職員による職場体験レポート
新型コロナウイルス感染症拡大により実施することができなかった
- ④ インスタグラムによる職員・利用者の写真公開
インスタグラムに限定せず、他のSNSなど、より効果的に情報発信できるツール・媒体について検討
- ⑤ 関係団体・法人等との連携事業
福祉人材の現状や取り組み状況等について意見交換を実施
 - ・3月14日 県高齢福祉保健課・子ども家庭課 ・3月24日 県障害福祉課
 - ・4月21日 新潟県社会福祉協議会 ・5月20日 長岡市福祉総務課
 - ・5月24日 柏崎市介護高齢課・市社会福祉協議会 ・6月9日 上越市福祉課
 - ・8月8日 南魚沼市介護保険課

2 基本方針別の事業実施概要

(1) みんなで育む福祉のまちづくり

- ① 県民の福祉への理解促進と福祉の心の醸成
 - ア 第72回新潟県民福祉大会の開催

- 11月10日 長岡市 参加者約650名
- イ 福祉・介護・健康フェアの開催
- ・新潟会場 11月26日 参加者3,518名
 - ・長岡会場 9月18～19日・22～24日 参加者1,200名
 - ・上越会場 10月22日 参加者300名
- ② 地域福祉活動・市町村社協活動支援事業振興
- ア 市町村社協会長視察研修 1回
- イ 市町村社協職員課題別研修
- ・社協新任及び初級職員研修会 1回 ・課題別研修 4回
- ③ 地域共生社会実現に向けた基盤構築の推進
- ア 市町村社会福祉協議会が抱える課題の抽出及び検討
- ・市町村社会福祉協議会への個別訪問調査 11カ所
 - ・市町村社会福祉協議会への個別支援 11カ所
- イ 地域共生社会の実現に向けた関係機関・団体との連携の場づくり
- a 地域共生社会の実現に向けた会議、研修 6回
- b 市町村間のプラットフォームづくりの推進
- ・災害時福祉支援活動推進に係る会議、研修等 9回 ・新潟県福祉教育推進会議 2回
 - ・ひきこもり支援をテーマにしたネットワーク会議 1回
- c 新たな社会課題の解決に向けた具体的取組
- ・ひきこもり者への支援推進フォーラム 1回 ・地域の居場所創出支援に係る調査、研修会 2回
- ④ ボランティア活動・社会貢献活動の振興
- ア 災害救援活動の推進
- 災害支援コーディネーター養成研修 初級、中級、上級プレ各1回
- 令和4年8月3日からの豪雨災害における被災地支援活動
- 村上市災害ボランティアセンター 8月4日～9月11日 延べ234名派遣
 - 関川村災害ボランティアセンター 8月5日～9月11日 延べ196名派遣
- 令和4年台風15号台風災害における被災地支援活動
- 静岡県葵区災害ボランティアセンター 10月7日～11月16日 延べ75名派遣
 - 静岡県清水区災害ボランティアセンター 11月24日～11月30日 延べ13名派遣
- イ 福祉教育の推進
- 福祉教育推進セミナー 2回
- ウ 県民たすけあい基金運用益助成事業 49団体 15,331,000円
- ⑤ 関係機関・団体との連携・支援の推進
- ア 福祉関係団体との連携・協働を基盤とした政策提言、予算要望活動の実施
- 福祉団体共同による県知事及び県福祉保健部長に対する要望活動 12月27日 新潟市
- イ 災害福祉広域支援ネットワーク事業の推進
- ・災害福祉支援チーム員基礎研修 9月5～6日 新潟市 受講者16名



第72回新潟県民福祉大会



福祉・介護・健康フェア



県北豪雨の災害ボランティア受け入れ

(2) 一人ひとりの自立生活づくり

- ① 高齢者の社会参加の促進
- ア ねんりんピック
- ・第27回にいがたねんりんピック 13種目
 - ・第34回 全国健康福祉祭 神奈川・横浜・川崎・相模原大会 (ねんりんピックかながわ2022)11月12～15日 神奈川県 89名派遣
- イ シニアカレッジ新潟
- ・基礎応用課程講座
 - 1年次 4クラス 全12日間 2年次 4クラス 全14日間
- ② 高齢者の生活支援の充実
- ア 認知症コールセンターの運営
- 相談者 431名 相談延件数 902件
- ③ 障害者の社会参加の促進
- ア 福祉の店パレット新潟店の運営
- ・農福マルシェ新潟・長岡・上越開催
 - 福祉・介護・健康フェア2022内で開催 ・授産事業活性化
- イ 障害者就労支援事業の展開
- ・子育て応援ステッカーの制作・販売 100枚 ・募金型自動販売機の制作・設置 21台
 - ・寄附金の受け入れ 1社 ・パートナー企業 36社・団体
 - ・障害者就労支援事業所製品を企業のお歳暮として活用
 - ・障害者福祉施設カレグラランプリの開催 5施設6種
 - 福祉・介護・健康フェア2022内で開催



ねんりんピックかながわ大会



シニアカレッジ新潟卒業式

- ④ 生活の安定への支援
 - ア 生活福祉資金等貸付事業
貸付件数：1,661件／貸付額：1,711,761,000円
(うち、特例貸付：1,545件／貸付額：471,160,000円)
 - イ ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業
貸付件数：8件／貸付額：2,050,000円
 - ウ 児童養護施設退所者等に対する自立支援資金事業
貸付件数：21件／貸付額：9,451,700円
- ⑤ 自立生活を支えるための包括的な総合相談・生活支援体制づくりの推進
 - ・生活福祉資金貸付事業担当者連絡会議(兼生活困窮者自立支援担当者研修) 1回
 - ・県・市町村社会福祉協議会と自立相談支援機関との情報交換会 1回
- ⑥ 生活支援相談員設置事業
 - ・新潟県生活支援相談員の配置(村上市社協、関川村社協 各1名常駐)

(3) 利用者主体の福祉サービスづくり

- ① 日常生活自立支援事業
 - ア 契約締結審査会 1回
 - イ 業務監督実地指導 14市町村社協
 - ウ 担当部課長会議 1回
 - エ 専門員ミーティング 1回
 - オ 専門員研修会 2回
 - カ 生活支援員研修会 1回
 - キ 人材育成推進ワーキングチーム 4回
- ② 福祉サービス利用者の苦情解決支援の充実
 - ア 福祉サービス運営適正化委員会の開催
 - ・委員会 2回
 - ・利用援助事業調査小委員会 4回
 - ・苦情解決小委員会 5回(苦情受付実績6件)
 - イ 福祉サービスに関する苦情解決研修会の開催
 - ・苦情解決責任者等研修会 1回

(4) 福祉を支えるひとづくり

- ① 福祉従事者の確保・就労の促進と働きやすい職場づくりへの支援
 - ア 福祉人材センター事業
 - ・福祉人材無料紹介所での求人求職相談、斡旋 相談件数10,886件 採用148名
 - ・福祉のしごと就職フェア
対面による就職フェアを5回開催 参加法人数140法人 来場者数235名
 - ・人材確保のための法人向けセミナーの開催
オンライン形式で2回開催 参加法人数50法人 参加者61名
 - イ 介護福祉士等修学資金貸付事業の実施
 - ・介護福祉士・社会福祉士修学資金 貸付件数：523件／貸付額：175,600,000円
 - ・介護福祉士実務研修受講資金 貸付件数：97件／貸付額：15,580,000円
 - ・離職介護人材再就職準備金 貸付件数：4件／貸付額：1,600,000円
 - ウ 保育士修学資金貸付等事業の実施
 - ・保育士修学資金 貸付件数：126件／貸付額：50,840,000円
 - ・潜在保育士再就職準備金 貸付件数：3件／貸付額：550,000円
- ② 介護の理解促進と知識・技術の普及・促進、介護分野への参入促進
 - ア 介護実技動画のインターネットを活用した普及・PR
 - ・令和2年度に制作した介護実技等の動画6本と講座のダイジェスト版9本を、引き続き新潟県社会福祉協議会のYouTubeチャンネルで無料公開した。
(3/31現在のチャンネル登録者数3,910人、制作動画6本の合計閲覧数46万回)
 - イ 動画を活用した県民介護知識・技術習得講座の開催
 - ・上記アの制作動画を実技で活用し、介護知識技術の普及に努めた。
 - ・介護技術・基本コース 新潟市、長岡市で4回開催 参加者62名
 - ・介護技術・ステップアップコース 新潟市、長岡市で2回開催 参加者20名
 - ・介護体験・入門コース 新潟市、上越市で15回開催 参加者219名



福祉のしごと就職フェア



県民介護技術講座

(5) 法人運営機能の強化

- ① 総合企画部会の開催 1回
- ② 職員の育成・組織力向上
組織力向上研修、社協職員研修、実践研修などを実施
- ③ 新潟ユニゾンプラザの管理運営
- ④ 新潟県社会福祉協議会事業継続計画(BCP)の評価・改善

「希望事業所の話聞けた」

福祉関係の求職者と求人事業が直接対面する「福祉のしごと就職フェア」(県福祉人材センター主催)が6月11日に長岡市で、24日には上越市で開催されました。

両市での開催は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止が続いた後、昨年から復活。感染状況が落ち着く中で、会場も活気を取り戻しつつありました。

ハイブ長岡での「就職フェアin長岡」には社会福祉法人やNPO、株式会社など、中越地域の25法人



長岡市での「福祉のしごと就職フェア」6月11日

長岡、上越も会場に活気

福祉のしごと就職フェア

が参加。求職者は来春卒業予定の大学生や専門学校生、一般の就職希望者など約40人が訪れました。

参加者は自主的にマスク着用で来場。「就職希望の事業所の話を聞いて良かった。もう少し回りたい」などと話し、気になるブースを訪れていました。

一方、上越市民プラザでの「就職フェアin上越」には上越地域の10事業所がブースを構えました。

学生や一般の就職希望者が訪れ、関心のある事業所から仕事の内容などを聞いていました。



上越市での「福祉のしごと就職フェア」6月24日



赤い羽根情報

阿賀町共募委から助成受け

男の料理教室受講生 ボランティアG結成

講師招き、エプロンそろえる

阿賀町共同募金委員会の「赤い羽根共同募金助成」を受け、町にシニア男性のボランティアグループが発足しました。「ありがとうメッセージ」が届きました。ご紹介しします。

◇ ◇

阿賀町社会福祉協議会が主催したシニア講座の1つ「男の料理教室」を昨年11月に受講したシニア男性たちが「次はみんなで魚をさばきたい！」と再結集。ボ



ランティアグループ「おやQ'sキッチン」を発足させ、阿賀で待望久しかった「シニア男性の集いの場」の誕生となりました。

メンバーは60、70代の11人です。助成金で講師を招いたほか「ふるさと阿賀町」のイメージカラー、グリーンのエプロンとバンダナをそろえました。写真。

このエプロンを着け、仲間と共に学んだことをボランティア活動に生かしていきます。今後は「ボランティア交流会」や子育てサロン「わんぱく★キッズサロン」でおやつボランティアにチャレンジ予定です！「自分の楽しみが誰かのためになる」のは最高のボランティア活動だと思います。助成していただきありがとうございます。

地域福祉文学大賞

新潟市西区社協が「小説」募集



「地域福祉文学大賞」のチラシ

「民生委員が活躍するミステリー、読んでみたいよね」。新潟市西区社会福祉協議会が職員の何気ない会話をきっかけに「地域福祉文学大賞」と銘打った小説コンテストを企画、作品を募集している。社協としてはユニーク過ぎる企画だが、今後は副賞を用意できないため、今回が最初で最後の予定という。

福祉の担い手 主人公に

企画、今回が最初で最後か

募集する小説は純文学やミステリーなど、ジャンルは問わない。字数は1万2千字（400字詰め原稿用紙で30枚）以内。太宰治の「走れメロス」に相当する

ボリュームという。詩や俳句、短歌などは対象外。

文学大賞は、地域福祉の担い手や重要な機能でありながら活動内容が知られていないといわれる「民生委員」「社会福祉協議会」「災害ボランティアセンター」

に光を当てようと、これらの名の3部門を設けた。

応募の際は3部門のいずれか1部門を決めてエントリーする。応募条件として例えば「民生委員」部門なら、主たる登場人物や関係者に民生委員が含まれた内容であることが必要。

新潟ゆかり

のストーリーのフィクションで、未発表のオリジナル作品であることも応募の条件となる。

副賞として大賞1作品に

ギフトカード10万円分、優秀賞3作品に同3万円分が贈られる。優秀賞は各部門から1点ずつ選ばれる。

西区社協が文学大賞を企画できたのは、副賞となるギフトカードをもらったた

400字詰め 30枚以内 9月末メ切り 11月末発表



「地域福祉文学大賞」募集
応募サイト

め。西区社協は事務室が手狭で、昨年、近くにレンタル倉庫を借り備品の保管場所とした。当時、倉庫会社を実施していた収納写真コンテストに応募したところ、グランプリに選ばれ、ギフトカードを贈られた。ギフトカードの活用法を考えるうち、職員同士の会話もあり、文学大賞につながった。副賞はほぼ使い切るため、次回の文学大賞は計画されない予定。

募集については県社協メールで市町村社協に告知したほか、募集を扱うWeb専門サイトに載せ、全国公募もしている。

西区社協の担当者は「文学大賞が、地域福祉の担い手に目が向けられるきっかけになってほしい」と話している。

応募締め切りは9月30日。11月30日に開催する西区地域福祉推進フォーラムで発表。問い合わせは西区社協、電話025(211)1630。

福祉の拠点

訪ねて

新 企 画

一般社団法人「り・ぼん」

長岡市三和1 02558(86)8588
施設：1F||地域活動支援センター 2F||自立の家

福祉の施設は、支援を必要とする人と支援する人をつなぐ「福祉の拠点」とも言える。県内にも数多くある施設はどんな活動をしているのか、訪ねてみた。

× × ×

過去の苦悩や現在など語り合う

ミーティング活動を重視



ミーティングの様子。依存症からの回復へ重要な活動という

依存症からの回復支援

支援センターとして運営され、訪れる利用者もいる。2階は依存症と向き合う利用者6人の居室。訪れた日のミーティングには外部からの参加者はなく、向かい合って座ったのは入居の利用者5人と職員2人。顔なじみだが、改めて名前と自身の依存症を告げてから話し始めた。

「アルコール依存症です」「私は薬物依存……」。訪れた水曜午後、民家を改修した施設1階「り・ぼん」の食堂では「午後のミーティング」が行われていた。依存症からの回復を支援する施設の1階は昼間、長岡市から委託された地域活動

「言いつ放し・聞きつ放し、他言無用」がミーティングのルール。アルコール

依存症からの回復を目指す世界的な団体の回復プログラムに沿った方法だ。

ミーティングは午前だと土日を含め毎日、午後は平日の水曜と金曜に開会。夜は外部のミーティングに自主参加する入居者も。なぜ、ミーティングを重視するのか。

一般社団法人「り・ぼん」(金子博理事長)職員で、地域活動支援センター施設

管理者の斉藤純子さんは語る。「例えば、アルコール依存症はたった一杯飲んだだけで、元の状態に戻ってしまう。自分の依存症を忘れないためにも自分と常に

職員の「これも聞いて」

一般社団法人「り・ぼん」の職員は、地域活動支援センター施設管理者の斉藤純子さんのほか、齋藤桂子さんと大野節子さんの3人。桂子さんと節子さんともに指導員だが、節子さんは経

入所利用者 地域行事に積極参加



施設の前に立つ職員3人。左から 齋藤桂子さん、斉藤純子さん、大野節子さん

向き合うことが大切です」県内でこうした施設は新潟ダルク(新潟市南区)とここだけ。「り・ぼん」の発足は2021年7月。それ以前は同じ場所と同様の施設をNPO法人が運営していたが解散。「り・ぼん」として再出発した。

理などの事務が中心。純子さんと桂子さんともに依存症に苦しんだ経験があり、ミーティングは自らに向き合う場でもある。利用者とは同じ立場であっても、職員として全体を見回すことも忘れない。「入居利用者は花見や清掃など、地域の行事に積極的に参加する。冬場は施設の除雪なども自発的に行い、大助かりです」と純子さん。施設の入居定員は6人で満室状態が続く。桂子さんは「利用したいとの問い合わせが多く、必要な施設だと実感する。拡充できればいい」と話した。

「身寄りなし問題」訴え列島北上 新潟通過 収穫抱え後半へ

各地で反響、手応え

7月中旬 ゴール宗谷岬

須貝 秀昭 代表理事

NPO法人



列島行脚の前半を終え、後半の旅に向かう須貝秀昭さん＝新潟市中央区の海岸道路

身寄りのない人たちに
とつても生きやすい社会や
地域を目指そうと、列島縦
断徒歩の1人旅を続けるN
PO法人「身寄りなし問題
研究会」（新潟市中央区）の
須貝秀昭代表理事が6月上
旬、新潟県を通過。ゴール
の北海道・宗谷岬へ、後半
の旅を歩み続けています。
ゴール到着は予定では7
月10日ですが「少し遅れそ
う」とのことです。
今年4月3日に沖縄本島

最南端の喜屋武岬をスタ
ートした須貝さんは1日30キ
前後を歩いて北上。九州か
ら本州の日本海側を歩いて
5月末、糸魚川から県内入
り。6月6日、新潟市中央
区に寄り、取材を受け、民
放ラジオ番組に出演した
後、県北から東北、北海道
へと進んでいます。

須貝さんは連日の長距離
徒歩で引き締まり、日焼け
してたくましい顔付きでし
た。当初、足のまめの痛み
に悩まされましたが「体は
慣れて元気そのもの」と笑
顔。「各地で新聞などに取
り上げてもらった。行く
先々で訴えへの反応が良
く、身寄りなし問題はどこ
も一緒と感じた。旅の後半
でも身寄りなし問題に向き
合う大切さを訴えたい」と
話しました。

パレット新潟店営業日



2023年		7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	
						1		
2	3	4	5	6	7	8		
9	10	11	12	13	14	15		
16	17	18	19	20	21	22		
23	24	25	26	27	28	29		
30	31							

営業時間 11:30～16:30 □…は休業日

2023年		8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	
		1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12		
13	14	15	16	17	18	19		
20	21	22	23	24	25	26		
27	28	29	30	31				

福祉の店
パレット情報

編集後記

小学生時代、夏休みの読書感想文が苦手だった。苦し紛れに、主人公の行動を抜き出し「僕だったら」と、自分に置き換えるパターンに終始した。その後、感想文を課されることもなくなったが、今号「巻頭特集」の鈴木慶さんに取材で会うたび「僕だったら」が頭の中でリフレインした。
小学生で2度、小児がんに見舞われ、抗がん剤治療の副作用に耐え、苦しくても自分のことより家族を思いやった。「僕だったら」きつと自らの宿命に絶望するばかりか、自分を産んだ親を責めたかもしれない。「優しさがこの子の取り柄」と母の絵里子さんが言うように、優しい心根は掛けなしだと思った。
困難や苦しさは今後も付きまとうかもしれぬが、これからの人生の幸よ、倍せよと祈るばかり。希望通り、小さい子たちに接する仕事に就き、優しさや人を思いやる大切さを伝えていってほしい。
(佐)

この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人／関原 貢
定 価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
令和5年7月1日発行（毎月1日発行）
印刷／島津印刷株式会社